

平成 31 年度（第 2 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

入学試験問題 外国語科目（英語）

注 意

- 1 試験時間は 90 分。
- 2 問題紙は 4 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 設問 I 、設問 II の解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の持ち込み不可とする。

【設問 I】次の英文を読み、下線部①～④を日本語に訳しなさい。

ここに当該文献の

p.6, L.1 から p.6, L.-14まで

p.7, L.3 から p.7, L.20まで

p.7, L.33 "We must certainly not..." から p.7, L.48 "...is that of common sense."までの部分が掲載されています。

また、以下の部分に下線が加えられています。

下線部①: p.6, L.17 "philosophy is ..." ~ L.19 "...to do about it."

下線部②: p.6, L.-20 "To think ..." ~ L.-17 "...as a physicist."

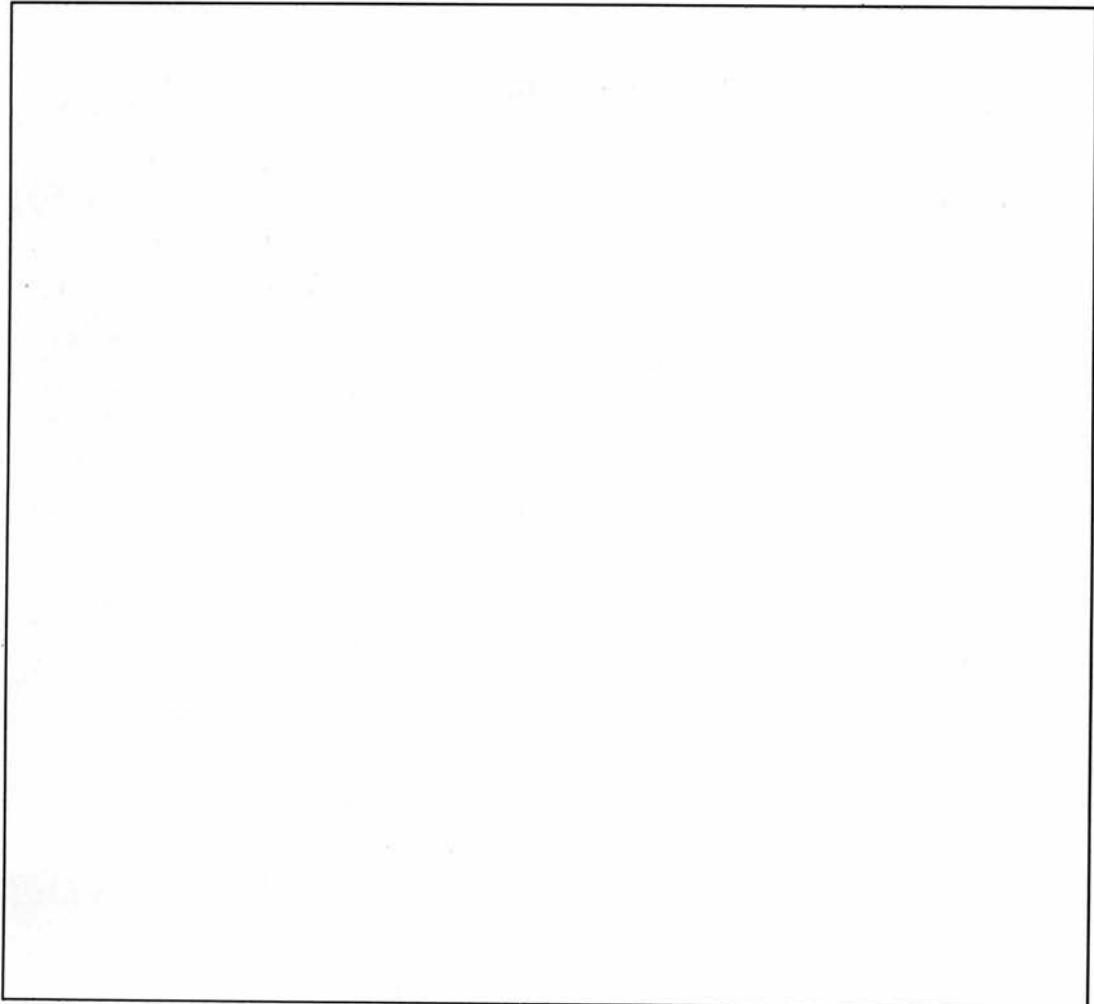
下線部③: p.7, L.13 "in their..." ~ L.20 "...as a physicist."

下線部④: p.7, L.40 "On this account of ..." ~ L.44 "...for us."

なお、p. でページ数を表します。

L. でページ先頭からの行数を表し、

負数の場合はページ末尾からの行数を表します。



(J. J. C. Smart, The Province of Philosophy, in *Introduction to Philosophy: Classical and Contemporary Readings*, 2nd edition, edited by J. Perry and M. Bratman, Oxford University Press (1993), pp. 6-7. より作成)

【設問Ⅱ】次の英文を読み、下線部①～⑤を日本語に訳しなさい。

ここに当該文献の

p.239, L.-14 から p.241, L.4まで
の部分が掲載されています。

また、以下の部分に下線が加えられています。

下線部①: p.239, L.-9 "It is a common ..." ~ L.-4 "...called it "active listening"."

下線部②: 紛失

下線部③: 紛失

下線部④: 紛失

下線部⑤: p.241, L.1 "Leaving it outside ..." ~ L.4 "...client session."

なお、p.でページ数を表します。

L.でページ先頭からの行数を表し、

負数の場合はページ末尾からの行数を表します。

(Jane Goodman, Basic Counseling Skills, in *The Handbook of Counseling*, edited by D. C. Locke, J. E. Myers, and E. L. Herr, Sage Publications (2001), pp.239-241.
より作成)

平成31年度（第2期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜)

入学試験問題 外国語科目（日本語）

注 意

- 1 試験時間は90分。
- 2 問題紙は6枚(表紙を除く)、解答紙は2枚。
- 3 設問I、設問IIの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の使用は、不可とする。

設問一 次の文を読み問いに答えてなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります(一部改変)。

苅谷剛彦『オックスフォードからの警鐘 グローバル化時代の大学論』
中央公論新社, 2017,
31頁の1行目「大学の国際競争力を・・・」~37頁の13行目「・・・につながるだろう。」

また、次の部分について、下線、傍線を付してあります。

傍線部(一):31頁の8行目「スイジュン」

傍線部(二):32頁の4行目「リュウホ」

傍線部(三):33頁の11行目「ズノウ」

傍線部(四):34頁の2行目「カクシ」

傍線部(五):35頁の14行目「ホンヤク」

下線部①:32頁の10行目「『想像上の(imagined)』国際競争」

下線部②:33頁の14行目~15行目「『リアルな』競争の場では、日本の大学は決定的に不利な立場に置かれている。」

空欄③:34頁の6行目、上から三文字

下線部④:35頁の4行目「そのこと」

下線部⑤:36頁の5行目「誰かが」~6行目「ことはない。」

- 問 1 傍線部 (一) ～ (五) の片仮名を適切な漢字に書き改めなさい。
- 問 2 傍線部 ① 「『想像上の (imagined)』国際競争」の示す内容を説明しなさい。
- 問 3 傍線部 ② 「『リアルな』競争の場では、日本の大学は決定的に不利な立場に置かれている。」とあるが、その理由を本文に即して説明しなさい。
- 問 4 空欄 ③ に入る適切な接続詞を一語記しなさい。
- 問 5 傍線部 ④ 「そのこと」の示す内容を記しなさい。
- 問 6 傍線部 ⑤ 「誰かがグローバルなランキングをつくづくしても、それが日本の大学市場（学生市場、教員市場、資金市場）に深刻な影響を及ぼすことはない。」とあるが、その理由及び筆者が大学のどのような側面についてこのように述べているのかを、本文に即して説明しなさい。

設置二 次の文や語み問うに答へよ。

ここに下記文献の抜粋が入ります(一部改変)。

坂井克之『心の脳科学』中央公論新社, 2008,
208頁の8行目「ロンドンの黒キャブの・・・」~213頁の3行目「まだわかつ
ていません」

また、次の部分について、下線、傍線を付してあります。

傍線部(一):208頁の13行目「測定」

傍線部(二):208頁の16行目「伴って」

傍線部(三):309頁の4行目「蓄える」

傍線部(四):210頁の9行目「三ヶ月前」

傍線部(五):212頁の5行目「優れた」

傍線部(六):212頁の7行目「集めて」

下線部①:208頁の11行目「このような空間的迷路」

下線部②:211頁の9行目「働きのよしあし」

下線部③:212頁の4行目~5行目「新しい記憶を書き込む能力」

下線部④:212頁の12行目「記憶の仕方を工夫するすべ」

下線部⑤:212頁の16行目~213頁1行目「学習の結果が脳領域の大きさの変化
として現れる」

4/6

- 問 1 傍線部（一）～（六）の漢字に仮名をふりなさい。
- 問 2 傍線部①「」のような空間的迷路」とは何か。本文に即して具体的に説明しなさい。
- 問 3 傍線部②「働きのよしあし」について、その意味を本文に即して具体的に説明しなさい。

問 4 傍線部③「新しい記憶を書き込む能力」について、本文において同義で用いられている表現をすべて抜き出しなさい。

問 5 傍線部④「記憶の仕方を工夫するすべ」について、その意味を本文に即して具体的に説明しなさい。

問 6 傍線部⑤「学習の結果が脳領域の大ささの変化として現れる」について、具体的にどのような変化が現れたのか、本文に即して説明しなさい。

平成31年度（第2期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜)

教育政策科学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は_____2枚（表紙を除く）、解答紙は_____2枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問題紙中に志望する専門分野ごとの問題選択の方法が記してあるので、それに応じて問題を選択のこと。
- 4 解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問 I : 共通問題（全員解答すること）

以下の文章は、「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成28年度)」の結果の一部である（「日本語指導が必要な児童生徒」とは、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じており、日本語指導が必要な児童生徒」を指す）。これらを読み、以下の問い合わせに答えなさい。

ここに当該文献の
P.1,L.12からP.1,L.13まで
P.1,L.-11からP.1,L.-9まで
P.3,L.11からP.3,L.13まで
P.4,L.2からP.4,L.5まで
の部分が掲載されています。

なお、p.でページ数を表します。
L.ページ先頭からの行数を表し、
負数の場合はページ末尾からの行数を表します。

問1 日本語指導が必要な児童生徒に対する教育や支援として有効だと考えられるものを複数挙げ、そのねらいと実施主体（機関）、ならびに実施における留意点について述べよ。

問2 日本語指導が必要な児童生徒の増加に対応した教育や社会のあり方を考察するうえで、どのような研究を行うことが考えられるか。自らの研究領域の方法論に即して研究テーマを設定し、テーマ設定の理由とリサーチ・クエスチョン、ならびに研究方法について述べよ。

設問Ⅱ：選択問題

【比較教育学領域】

次の文を読み、下の問い合わせに答えなさい。

ここに当該文献の
P.15,L.5からP.15,L.21まで
の部分が掲載されています。

また、以下の部分に下線が加えられています。
下線部(1) : P.15,L.13 “比較する行為” … L.14 “するものでもある。”
下線部(2) : P.15,L.15 “比較教育学においては” … P.15,L.17 “されてきた”

なお、p.でページ数を表します。
L.ページ先頭からの行数を表し、
負数の場合はページ末尾からの行数を表します。

(近藤孝弘「地域研究は多様性の擁護者となれるか」近藤孝弘・中矢礼美・西野節男編著『リーディングス 比較教育学 地域研究—多様性の教育学へ—』東信堂、2018年、15頁)

問1 下線部①において述べられていることには、どのような含意があるか、分かりやすく説明しなさい。

問2 下線部②について、比較をしないことが比較教育学にとって重要であるとは、どのような意味においてのことであるか、分かりやすく説明しなさい。

平成31年度（第2期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜)

教育心理学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は3枚（表紙を除く），解答紙は4枚。
3. 【共通】【A,B,C-1】【A,B,C-2】【A,B,C-3】の解答は，問題番号を明記の上，それぞれ別の解答紙に記入すること。
4. 志願する領域によって解答する問題が異なるので，注意すること。
「教授学習心理学」領域を専攻しようとするものは【共通】【A-1】
【A-2】【A-3】の各問題に解答すること。
「発達心理学」領域を専攻しようとするものは【共通】【B-1】
【B-2】【B-3】の各問題に解答すること。
「発達障害学」領域を専攻しようとするものは【共通】【C-1】
【C-2】【C-3】の各問題に解答すること。

<教授学習心理学領域>

【共 通】 下の図は、ある特性について男女別にテストした結果をグラフにしたものである。グラフの横軸はテスト得点を、縦軸はそれぞれの得点の出現頻度を示す。男女別に得点の平均値を算出したところ、女性の平均値は男性の平均値よりも高かった。ここから、この特性について性差があると結論づけて良いか。グラフを参考にしながら、あなたの考えを説明しなさい。

ここに下記文献の抜粋(図)が入ります

Banyard,P.(2003).Controversies in psychology.Routledge.

【A-1】 類推(analogy)を用いた問題解決や学習について、その長所と短所とを具体的に論じなさい。

【A-2】 文章を理解する仕組みについて、「ボトムアップ」「トップダウン」の各語を用いて説明しなさい。

【A-3】 「知識の構造化」を促進するにはどのような学習方略が有効であるか。具体的に説明しなさい。

<発達心理学領域>

【共通】 下の図は、ある特性について男女別にテストした結果をグラフにしたものである。グラフの横軸はテスト得点を、縦軸はそれぞれの得点の出現頻度を示す。男女別に得点の平均値を算出したところ、女性の平均値は男性の平均値よりも高かった。ここから、この特性について性差があると結論づけて良いか。グラフを参考にしながら、あなたの考えを説明しなさい。

ここに下記文献の抜粋(図)が入ります

Banyard,P.(2003).Controversies in psychology.Routledge.

【B-1】 J.Piaget の 4 つの発達段階のうち、感覚運動期の特徴を「循環反応」という用語を使って説明しなさい。

【B-2】 J.Bowlby による「母性剥奪」(maternal deprivation)について説明した上で、この概念について現代的な観点から論じなさい。

【B-3】 「青年期の発達には、時代・コホート要因が大きな影響を与える」とはどのようなことか。青年期の発達の特徴について言及しながら、具体的な例を挙げて説明しなさい。

<発達障害学領域>

【共 通】 下の図は、ある特性について男女別にテストした結果をグラフにしたものである。グラフの横軸はテスト得点を、縦軸はそれぞれの得点の出現頻度を示す。男女別に得点の平均値を算出したところ、女性の平均値は男性の平均値よりも高かった。ここから、この特性について性差があると結論づけて良いか。グラフを参考にしながら、あなたの考えを説明しなさい。

ここに下記文献の抜粋(図)が入ります

Banyard,P.(2003).Controversies in psychology.Routledge.

【C-1】 田中ビネー知能検査V及びWISC™-IV知能検査について、それぞれの概要と両者の違いを論じなさい。

【C-2】 知的発達障害の定義について説明した上で、知的発達障害を引き起こす病理的要因について頻度の高いものを一つ取り上げ、その要因と知的発達障害の症候との関連について併せて論じなさい。

【C-3】 ASDを対象としたペアレント・トレーニングについて概要やプログラムに必要な要素について論じた後に、ペアレント・トレーニングの効果と限界について論じなさい。

平成31年度 (第2期試験)

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜／社会人特別選抜／外国人留学生特別選抜)

臨床心理学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は1枚（表紙を除く）、解答紙は5枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと（設問I～設問IIIの解答は各1枚の解答紙を用いて、設問IVの解答は2枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を1枚目、(5)～(8)を2枚目に記入すること）。

…………臨床心理学コース 一般選抜／社会人特別選抜／外国人留学生特別選抜…………

【設問Ⅰ】 心的外傷後ストレス障害について論じなさい。 (20点)

【設問Ⅱ】 あなたは中学校のスクールカウンセラーである。ある日、相談に訪れた女子生徒Aが、部活でいじめを受けていて学校に来るのも辛いと打ち明けてくれた。よく話を聞くと、いじめグループの中心人物は、相談室に来てはおしゃべりをしていく女子生徒Bであることがわかった。AとBの今後の相談について、どのように対応すればよいか、あなたの考えを述べなさい。 (20点)

【設問Ⅲ】 主な防衛機制を3つあげ、それぞれについて例を用いて説明しなさい。
(20点)

【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。 (各5点)

(1) 被暗示性テスト

(2) 森田療法

(3) 障害受容

(4) DSM-5

(5) 発達の可塑性

(6) ホメオスタシス

(7) 5因子性格検査

(8) 回帰分析

(以下余白)